



きたかわ商店のこだわりのあんこを炊く次女の志真さん

自社の強みが何なのかを 気付かせてくれました

株式会社きたかわ商店

代表取締役 内藤 和起さん



当社は、明治30年に創業した長い歴史がある「あんこ屋」です。今は、小豆の健康飲料の開発やジャム、カットフルーツの製造御も手掛けています。商工会議所とは先代（母）のころから親しくさせていただいています。

洋菓子もやってみたいと思っ
ていたところに、ちようど農商
工連携の話をいただき、いちじ
くを使った洋菓子の開発にチャ
レンジ。試行錯誤の末、「和歌山
ロール」を開発し、メディアに
も取り上げてもらいました。一
時は品薄になり、順番待ちをし
ていただいたほど。ただ、加工
用のいちじくを安く継続して仕
入れるのは難しく、現在のメー
ン事業にはなっていないです。

そんなときに、和歌山商工
会議所の野田さんから

「100年企業」として商
工会議所で表彰させてほ
しいとの打診がありました。
最初は気恥ずかしい
気持ちもあって、お断り
していたのですが、社員
から「勤め先が100
年企業として表彰され

たら誇りを持てる」と言われ、
お受けすることに。これが、き

たかわ商店の強みは何だろうと
あらためて考えるきっかけにな
りました。結論は「あんこ」。商
売の道徳や哲学などは変えては
いけません、どんなに変えて
磨きをかけていくべきものもあ
ります。あんこに関する技術を
徹底的に磨き上げようと決心
し、製造方法を根本から見直し
ました。「昔からやっているから」
ではなく、「どの工程でも科学的
に最適な方法」を探すようになっ
たのです。

このことで、「きたかわ商店の
あんこ」に絶対の自信を持てる
ようになりました。展示会でも
堂々と売り出せるようになりま
した。ある高級スーパーとの商
談でも自信を持って、あんこを
アピールできましたし、結果と
して、そのスーパーとの取引も
決まりました。

ずっと真面目なあんこ屋でい
たいですね。生まれ変わっても、
もう一度社長がしたいと思える
ような会社にしていくという目
標に向かって頑張ります。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ！

担当者からひと言



和歌山商工会議所（和歌山県）
企業支援部参事・経営指導員

野田 浩史

内藤さんには、観光食品部会
の部長をしていただいています。
す。周りを笑顔にする方で、部
会でもメンバーの笑顔が絶えま
せん。また、当所の事業にも積
極的に参加いただいています。
例えば、農商工連携事業では、
いち早く商品開発に取り組んで
いただき、「和歌山ロール」を完
成させました。この製品は「紀
の国わかやま国体」で皇室の方
が召し上がっていたり、製品に
も選定されています。

当所の事業を考えると、
よく内藤さんに意見を伺います。
今後もヒントいただきながら、
事業を改善していきたいです。
また、提供できる情報は何でも
お届けし、国が打ち出す中小企
業支援策を会員の皆さまに活用
してもらえように取り組んで
いきます。